

さいたま労働基準監督署管内/埼玉県内における 建設業の労働災害発生状況と現状

さいたま労働基準監督署
令和4年11月



○死亡災害発生状況

埼玉県内における労働災害による死亡者数は、長期的に見ると全産業、建設業ともに減少傾向ですが、令和3年の死亡者数は、

全産業で昨年比16人増加(+88.9%)の34人

建設業で前年比3人増加(+37.5%)の11人

となっており、どちらも前年から増加しています。(令和3年確定値)

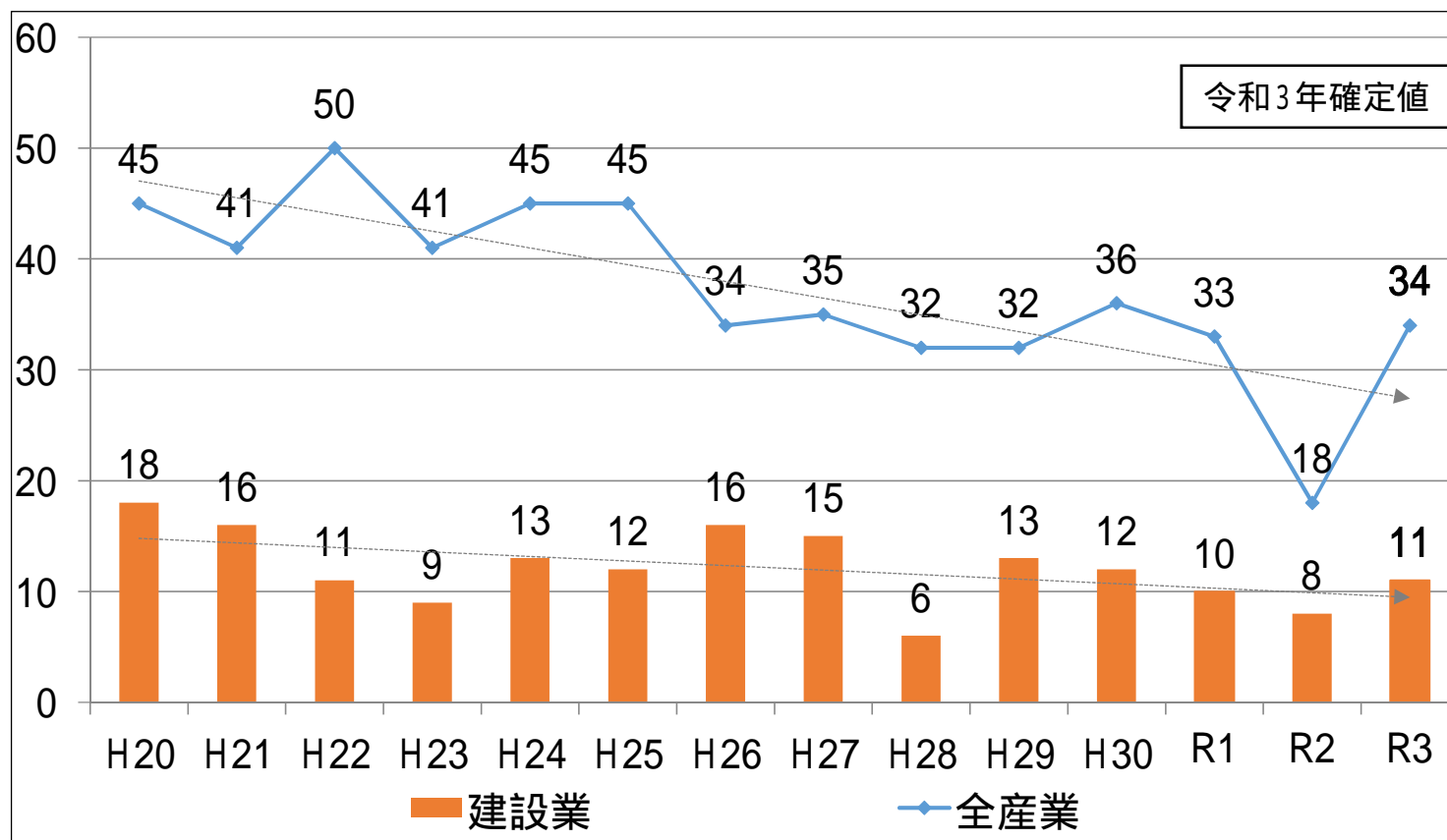


図1 埼玉県内における労働災害による死亡者数の推移(平成20年以降)

○建設業の死傷災害発生状況

さいたま署管内/埼玉県内における建設業の労働災害による休業4日以上死傷者数は、長期的に見るとどちらも微減となっていますが、令和3年は大きく増加しており、過去6年間で上回っています。

さいたま署管内では、埼玉県全体を大きく上回る増加率となっています。(前年同期からの増加率 さいたま署:+29.3%、埼玉県:+16.5%)

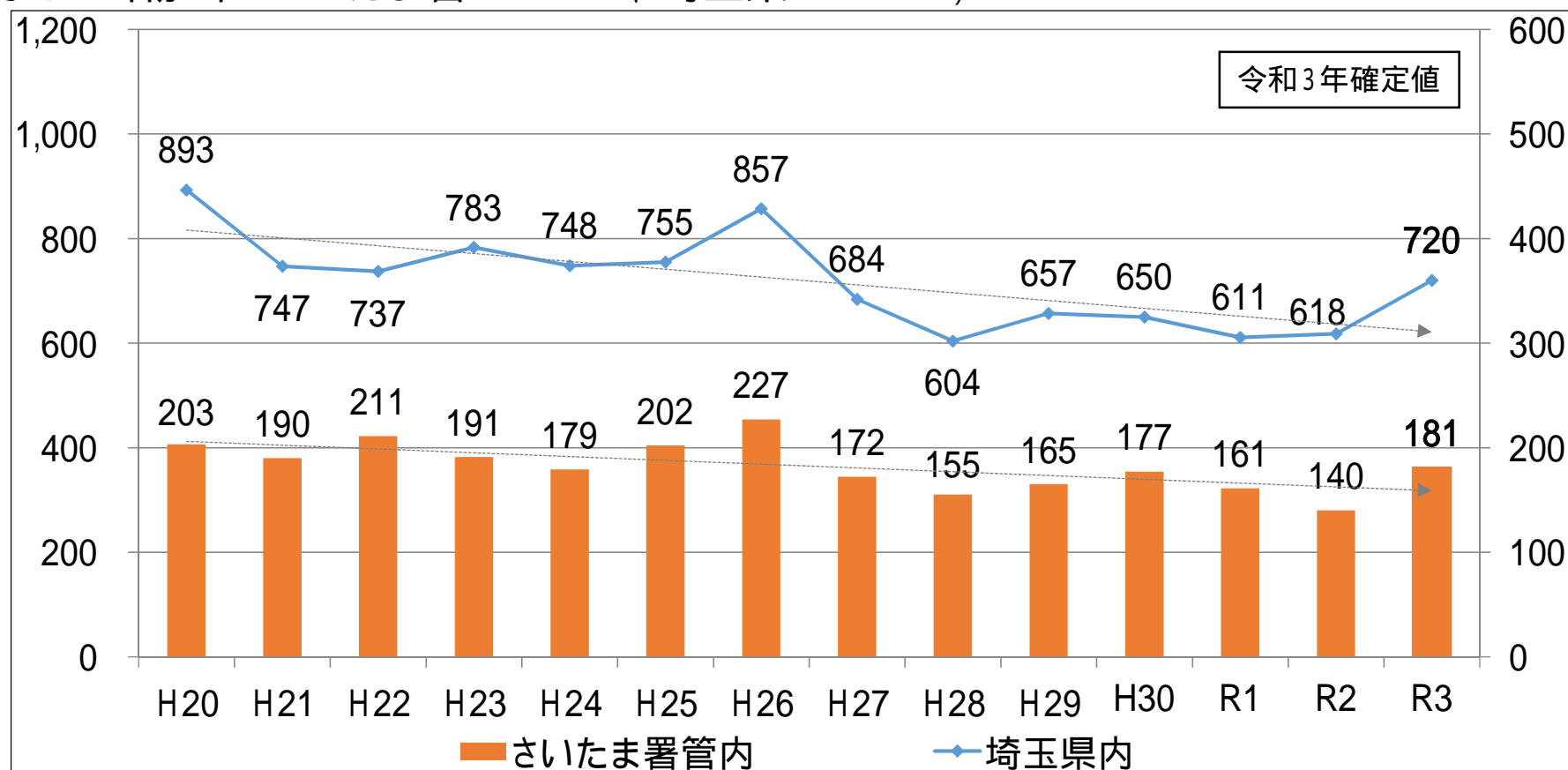
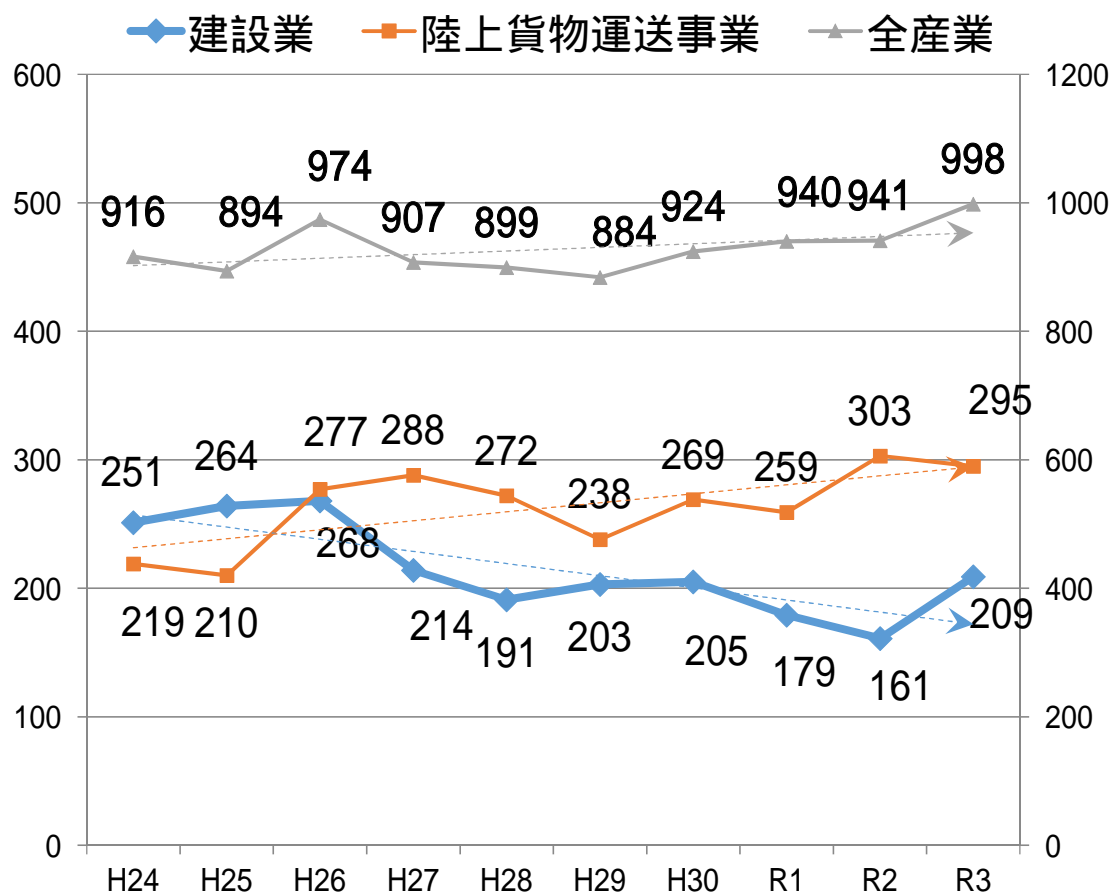


図2 建設業における労働災害による死傷者数の推移(休業4日以上・平成20年以降)

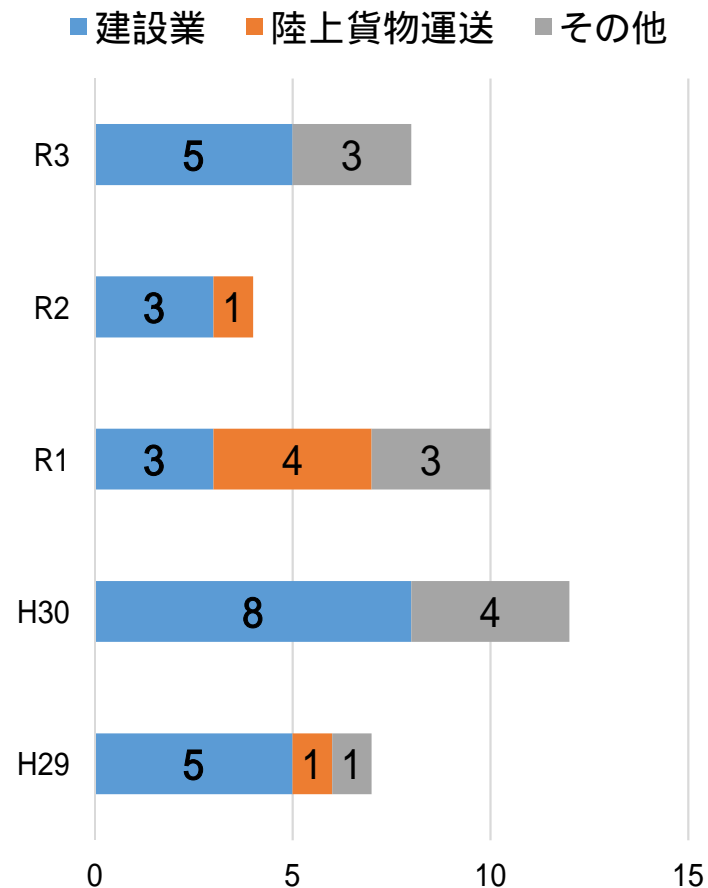
○埼玉県内における「墜落・転落災害」発生状況

埼玉県内における「墜落・転落災害」による休業4日以上の被災者数は、建設業では減少傾向ですが、全体的にみると横ばいから微増となっており、ここ数年は陸上貨物運送事業が建設業を上回っています。

しかしながら、「墜落災害」による死亡者数は依然として建設業が最多となっています。



墜落災害発生状況(休業4日以上)



墜落災害発生状況(死亡災害)

○埼玉県内における「事故の型別」労働災害発生状況

埼玉県内の建設業における労働災害を事故の型別に見ると、死亡、死傷ともに墜落・転落災害が最も多く発生しています。

特に、はしご等(はしごと脚立の総称)からの墜落・転落災害が多発しています。

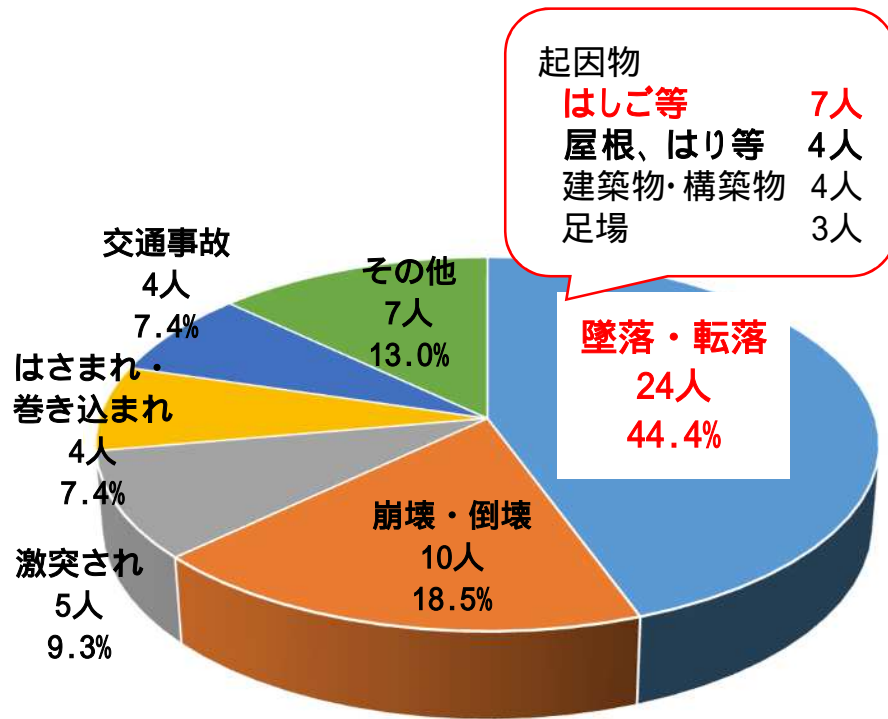


図3 建設業の「事故の型別」**死亡災害**発生状況
(埼玉県内、平成29年～令和3年)

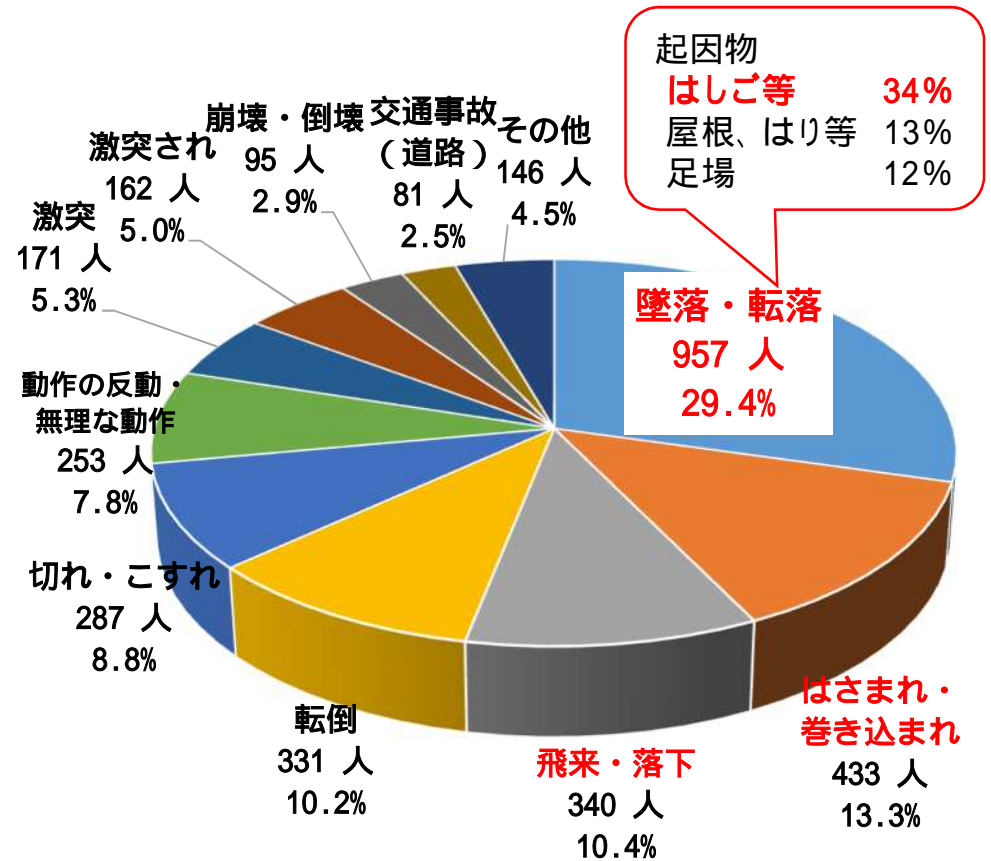
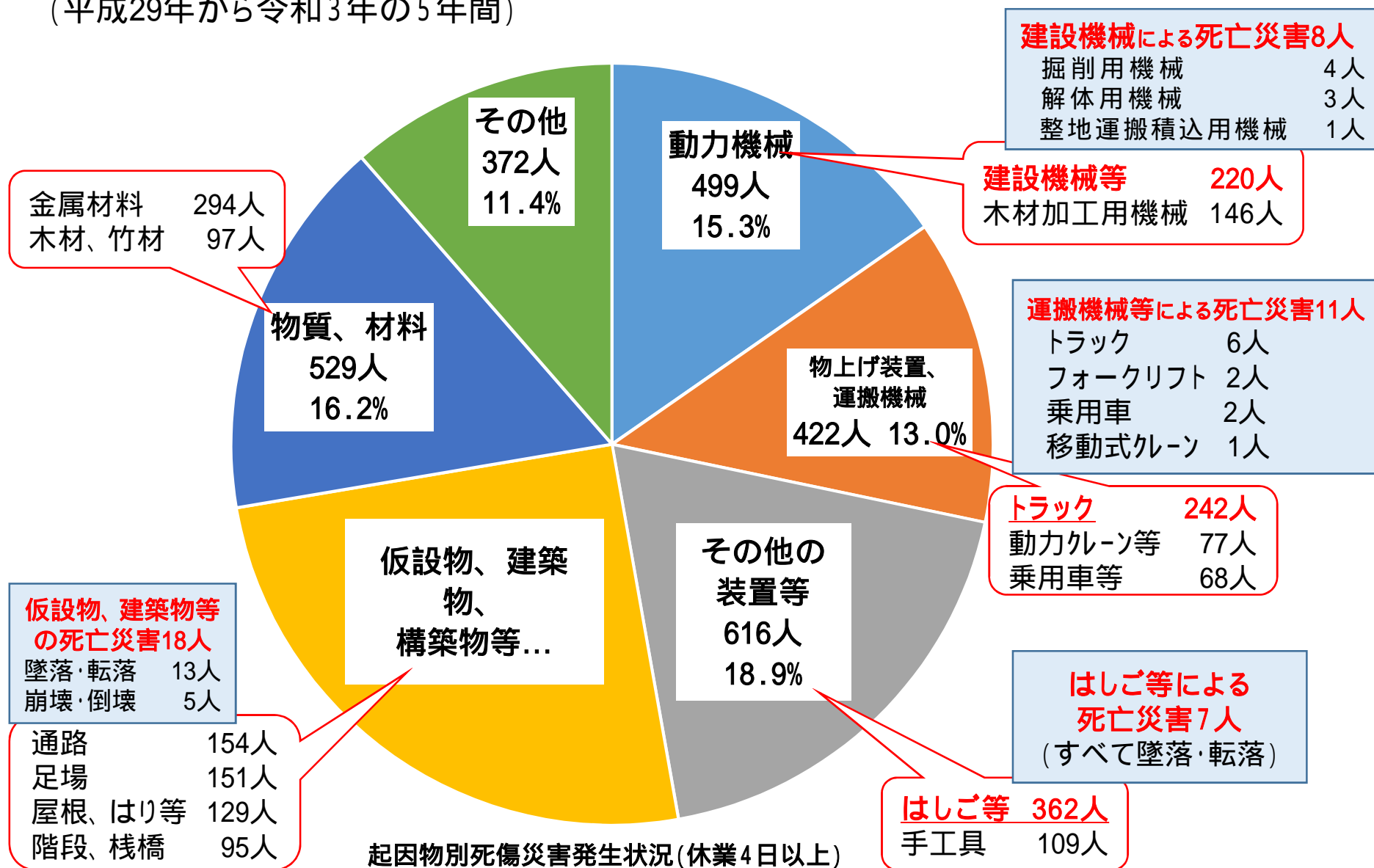


図4 建設業の「事故の型別」**死傷災害**発生状況
(休業4日以上、埼玉県内、平成29年～令和3年)

○埼玉県内における建設業の「起因物の型別」労働災害発生状況

(平成29年から令和3年の5年間)



埼玉県内における

建設業の労働災害状況の傾向

- **墜落・転落**による労働災害は長期的に見ると発生件数が減少してきているが、依然として死亡者、死傷者ともに最多の割合をしめており、引き続き重点的な対策が必要。
 - ・「**はしご等**」からの墜落・転落は、死亡災害、死傷災害ともに被災者数が最多となっている。（「はしご等」=はしご、脚立の総称）
 - ・**屋根、はり等**足場の設置が難しい箇所からの墜落による死亡災害が多発している。
- **はさまれ・巻き込まれ**による労働災害は、トラックや建設用機械などの動力機械を起因物とする災害が多く、死亡災害にもつながりやすい。
- **トラック**は、はさまれ・巻き込まれや交通事故などの死亡災害の起因物になるおそれがあるほか、荷台等からの墜落・転落、激突され、積荷等の飛来・落下、不安定な運転姿勢による腰痛など、様々な労働災害の起因物となりやすい。